

iC 進路探究の紹介

【対象：普通科・理数科3年 | 単位 育成する主なiコンピテンシー： ① ② ③ ④ ⑤】

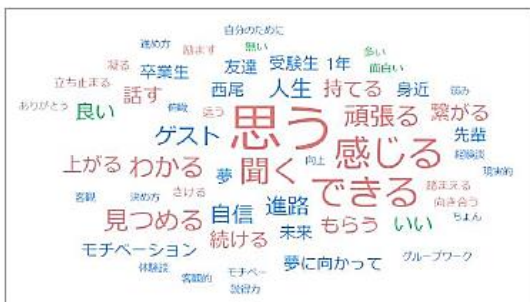
【目的】主体的な探究活動や他者との関わりを通して、自らの学びや様々な活動を振り返り、適切に将来の進路を選択できる力を養い、その実現に向けて具体的な行動ができる資質・能力を養う。

【仮説】これまでの高校生活を振り返り、課題探究の内容や教科での学びをもとに、自己の進路選択に結びつける力を育成する。その力をもとに自己の興味・関心のありかを理解し、それを大学での研究に結びつけ、進路選択に生かすことができる。

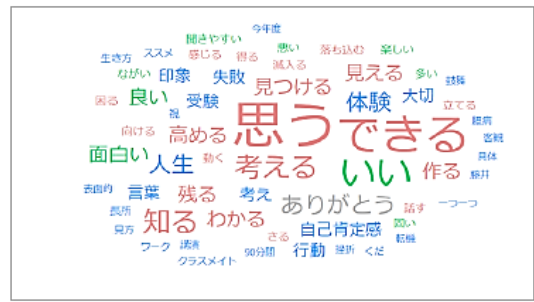
【内容】

2年次課題研究の成果を含めた自分自身の成長の軌跡を振り返ることで、次のステージへと「つなぐ」こと、将来の自分と社会とを「つなぐ」こと、課題研究を行う上で先輩と後輩を「つなぐ」ことなど3つの「つながり」を深める活動を行っています。

具体的には、「過去の自分と現在の自分」や「現在の自分と未来の自分」を客観的に捉える視点、現在の自分への他者からの視点といったように、複数の視点から自分を捉える・知るということを念頭に置き、「未来の自分史(志望理由書と進路実現計画書)」の作成や Ancs プログラム(自己肯定感, 非認知能力の醸成)などを実施しました。



1組 (進路や見たいにに対し前向きな様子)



7組 (面白さを感じ、感謝を伝えようとする様子)

【上:Ancs プログラム実施後の感想からテキストマイニングを作成したもの下:i-コンピテンシー自己評価結果】

また、将来の自分と社会とを「つなぐ」取り組みの一環として、6月には ROSE LABO (株) の田中彩華様によるオンライン講演会を実施する予定です。

後輩へ「つなぐ」取り組みとして、2年生と合同でグループ別課題探究座談会を実施し、探究活動を進めていく上でのポイントを先輩である3年生から伝達を行いました。

「未来の自分史」作成では、[志望理由書]と[実現計画書]の作成を通して、これまでの自己分析を基に大学でどのような研究を行い、さらにどのような形で社会へ貢献していくかをまとめ、そのために必要な取り組みを教科ごとにまとめた。

